

地域での国際交流と 日本人学生のエンパワーメント

- 話っ、輪っ、和っ! の取り組み -

(静岡県留学生等交流推進協議会)

静岡大学
国際連携推進機構
国際教育推進部門
准教授 袴田麻里



わわわの目的



- * 同じ地域で学ぶ**大学生**が地域住民との交流を通して地域を知り、勉学生活を充実させる。
- * **大学生**が互いに交流することによって、次世代の国際社会で活躍する者同士を強く結びつける。



わわわのきっかけ



- * 学部留学生…留学生で固まる

一番日本に長くて、一番日本語で情報が取れる
＝一番、日本と日本人を理解できる

- * 日本人学部生…留学生いる？

人数が一番多い＝一番普通の大学生

- * 神戸大学KISSの取組み



静岡でもできる！？（はず）

静岡県留学生等交流推進協議会の活動

静岡県留学生等交流 推進協議会



静岡県内における留学生等の受入れの促進
や地域住民との交流活動の推進を図るため
の具体的方策等を協議することを目的とし
て、1989年に設置。県内の高等教育機関、
地方公共団体、入国管理局、経済団体及び
国際交流関係団体等53団体・機関の長又は
代表者等で組織。

わわわの歩み

(<http://www.icsu.shizuoka.ac.jp/japan/0214.htm>)



- ① 2003. 01. 25. 「世界の視点で日本を語ろう！」（静岡市）
- ② 2003. 10. 12-11. 「世界に一言もの申す!!」（浜松市）
- ③ 2004. 10. 9-10. 「みんなでつなごう 世界の わっ!」（浜松市）

【公益信託チヨタ遠越準一文化振興基金、浜松市国際交流協会、静岡県立大学はばたき寄金】

- ④ 2005. 11. 26-27. 「学生生活」（浜松市）
- ⑤ 2006. 12. 16. 「話して、仲間になって、和もう」（静岡市）
- ⑥ 2007. 10. 13. 「私の常識、みんなの非常識!？」（浜松市）
- ⑦ 2008. 10. 11-12. 「ワクワクWORK ドキドキTALK」（静岡市）

※静岡県における留学生の就職意識と企業の留学生採用意識に関する調査

- ⑧ 2009. 11. 28-29. 「明日に向かって go ahead now!」（浜松市）

※留学生の日本企業への就職・日本企業での活躍を促すために - 元留学生聞き取り調査を通して -

- ⑨ 2010. 12. 11-12. 「静岡からShizuokaへ」（静岡市）
- ⑩ 2011. 12. 17-18. 「今までと今から～SHIZUOKAと私たち」（浜松市）

【静岡県留学生支援ネットワーク】

わわわの歩み

(<http://www.icsu.shizuoka.ac.jp/japan/0214.htm>)



⑪ 2012. 12. 8-9. 「しずおか大発見！」（焼津市）

第24回 国連軍縮会議 in 静岡

⑫ 2013. 12. 7-8. 「今、静岡で私たちができること」（静岡市）

⑬ 2014. 12. 20-21. 「静岡県の特徴って、なーんだ!？」（静岡市）

⑭ 2015. 12. 19-20. 「ふじのくに、静岡県へようこそ！」（焼津市）

⑮ 2016. 12. 17-18. 「グローバルにグローバル in 静岡」（静岡市）

⑯ 2017. 12. 9-10. 「道草のおいしい食べ方」（焼津市）

【地(知)の拠点大学による地方創成推進事業】

⑰ 2018. 12. 22-23. 「友達マップ-あなたの”わ”を広げよう！」（富士市）

⑱ 2019. 12. 21-22. 「お隣さんは外国人」（焼津市）

【留学生就職促進プログラム】

⑲

⑳

わわわの活動



- | | | | |
|----|--|-----|----------------------------------|
| 4月 | 実行委員募集、会場決め | 9月 | チラシ完成、広報開始 |
| 5月 | 実行委員会発足
自己紹介、わわわとは、
委員会開催日決め | | レクリエーション練習
トーク練習
全体会内容・やり方 |
| 6月 | 役割決め、トークテーマ
案出し、役割の予定決め | 10月 | レクリエーション、
トーク、全体会練習 |
| 7月 | レクリエーション案出し、
トークテーマ検討 | 11月 | リハーサル(1泊2日) |
| 8月 | 本番スケジュール検討
(合宿)チラシ作成
ユニフォームデザイン
トークテーマ決定・練習
レクリエーション検討
報告書レイアウト決め | 12月 | 最終確認
わわわ本番(1泊2日)
報告書作成 |
| | | 1月 | 反省会
報告書発送
実行委員会解散 |

わわわの効果①



大学や協議会にとって

- 1) 静岡県での留学生支援
(就職支援、地域交流など)
- 2) 県内大学生交流
- 3) 静岡県への留学生誘致

留学生の静岡県(日本)への定着促進

わわわの効果②



留学生

- 1) 積極的な日本人と知り合える
- 2) 日本人と同じレベルで活動できるか試せる
- 3) 日本語の能力を試せる

自信

日本人
学生

- 1) 留学生と知り合える
- 2) いろいろな考え方が分かる

広い視野

わわわの効果②



- 1) 他の大学や学部の様子が分かる
- 2) いろいろな人がいることが分かる
- 3) 大学以外の人と活動できる
- 4) 自分たちで問題を解決する体験ができる
- 5) 自分の発言が伝わらないことが実感として分かる。

留学生

日本人
学生

自分を知る → 共生社会の構成員

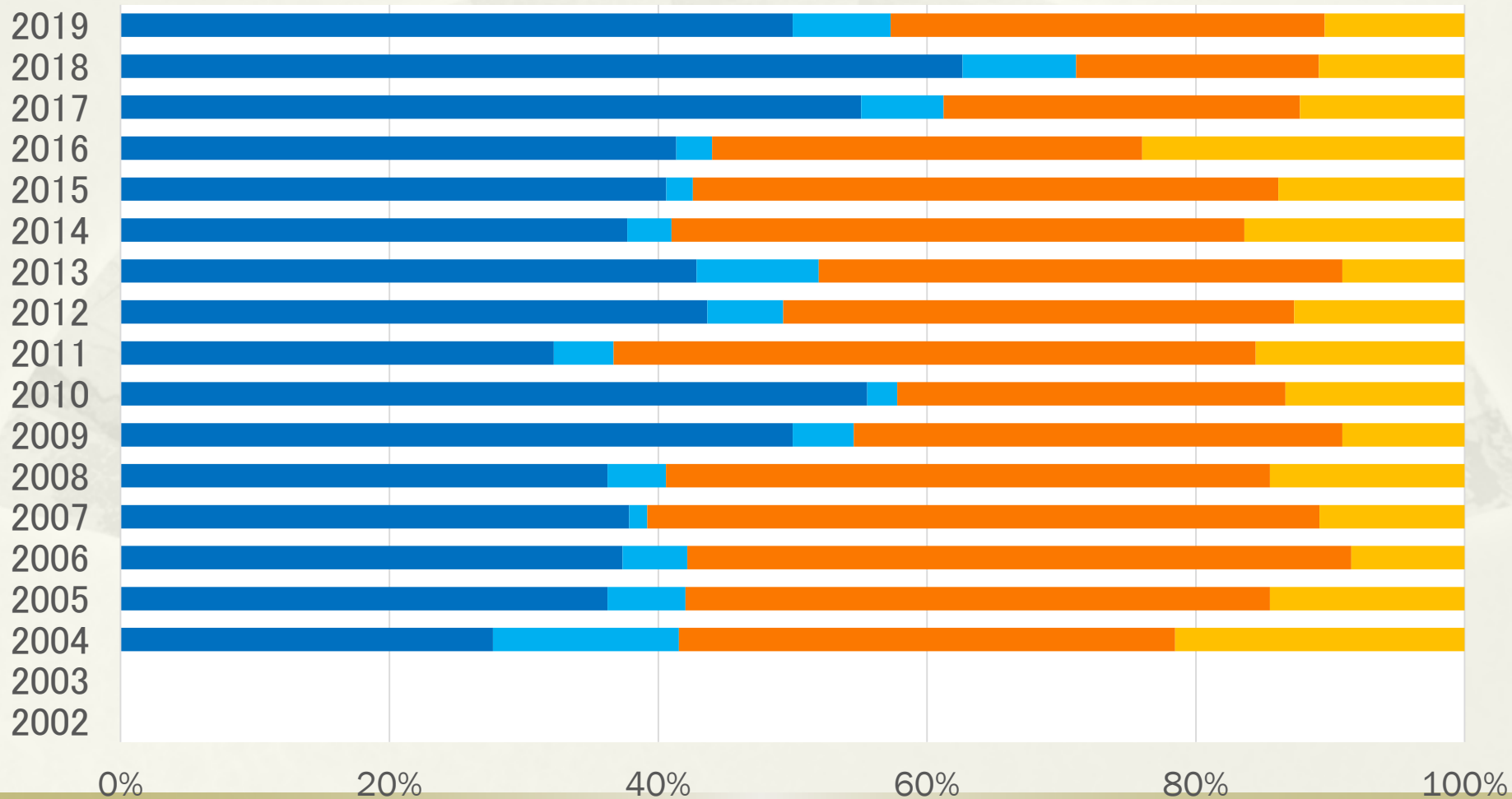
わわわの課題



* 日本人参加者の減少傾向

留学生と日本人学生の割合

■ 参加留学生 ■ 委員留学生 ■ 参加日本人学生 ■ 委員日本人学生



日本人参加者の減少傾向

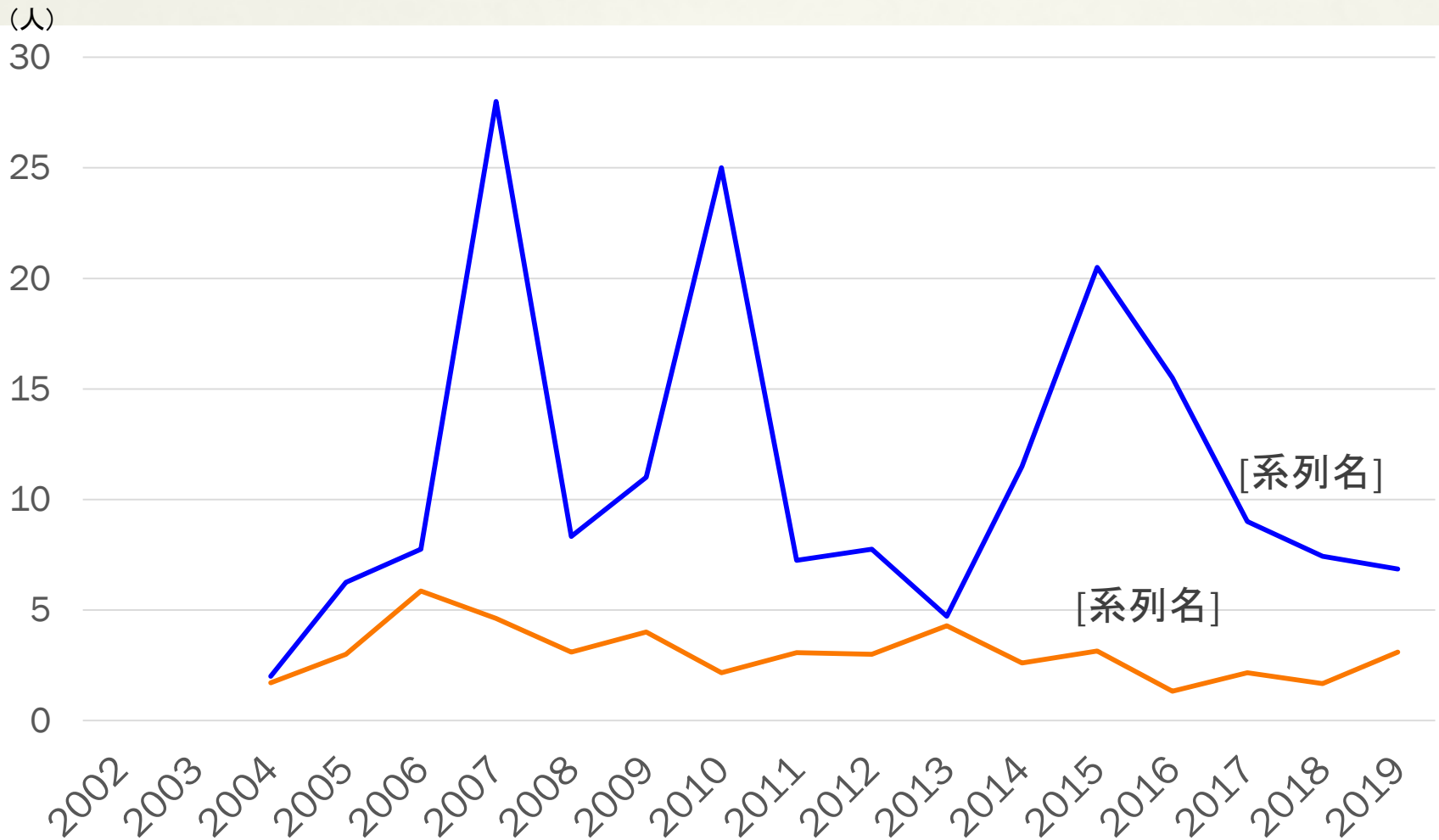
R1.5.1. 現在の県内学生数

留学生1076名（「留学交流しずおか2019」より）

大学生36009名 = 学部生33505 + 大学院生2504
（「学校基本調査 令和元年度」より）

留学生：日本人学生 = 1：32

実行委員1人当たりの参加者数



わわわの課題の原因



実行委員アンケートより (2018、2019)

- 1) 「日本人と留学生が交流するイベント」ではなく 「留学生のイベント」 というイメージ
- 2) 誘っても 「メンドクサイ」
- 3) 土日とも バイトを休むのは難しい

わわわの課題対策



1) 「留学生のイベント」のイメージ



日本人の**メリット**を具体的に示す

日本人参加者の**コメント**を拡散

口コミ+**映像**で「日本人と留学生
が交流するイベント」をアピール

わわわの課題対策



2) 「メンドクサイ」

a. 声をかける人を間違えている？



国際交流に関心を持つ人に
声かけ

楽しさを知っている人は、
楽しさをより実感できるけど...

社会参加

国境を越えて、人が移動し、さらに定住化の傾向が進む中、先進国を中心とする世界各国で文化的背景の多様な住民による共生社会構築のための取り組みが行われています。このような状況の中、日本社会・文化の伝統を大切にしつつも、各人が互いに異なる文化や考え方を学び、尊重し合う社会を実現するため、言語・文化の多様性を尊重する社会を作ることが必要です。

(文化庁(2015)、p.28)

エンパワーメント

「ある人が生きる力を獲得し、さらに周囲の社会環境に対しても何らかの影響を与えるようになる過程」(宇佐美、他(2013) p.2)

「獲得された意思疎通の手段により、人とつながること、言葉の壁によって発揮できていなかった自分らしさや力を取り戻したり、発揮できたりするようになること、そして社会の一員として自立し、社会生活のあらゆる領域に参画すること」(文化庁(2015)、p.28)

国際交流への意欲差

- **留学生**は、日本人学生や他の留学生と関わりたい、いろいろなコミュニティに参加したい
- **日本人**は、留学生との交流に興味を持っていない**学生**が多い
- **日本人学生**は、内容が分からないと不安

日本人学生は、
次世代の国際社会で活躍できるか？
外国人住民と共生できるか？

わわわの課題対策



2) 「メンドクサイ」

3) 土日ともバイトを休むのは難しい

b. 実は、自信がない？ 一人は不安？



一人でも大丈夫だとアピール

グループを誘う

日本語で交流できると明示

わわわ2019実行委員会打ち上げ(2020.01.26.)



話っ、輪っ、和っ！

いろいろ課題 = いろいろ楽しいこと
出身が違っても、年齢が違っても、大学が
違っても、専門が違っても、男でも女でも、
静岡県で学ぶ**同じ大学生**として
卒業後、**共に働き生活する仲間**として

話して
仲間(輪)になって
和もう



参考文献

宇佐美洋、池上摩季子、齋藤ひろみ、西口
光一、松尾慎(2013)「特集「エンパワ
ーメントとしての日本語支援」について」
pp.2-4、『日本語教育』155号

静岡県留学生等交流推進協議会(2019)『留学
生交流しずおか2019』第26号

文化庁文化庁国語課(2015)『「生活者としての
外国人」のための日本語教育ハンドブック』